

親王家の御祈には、外祖忠仁公の御ち僧、ひゑい山のゑりやう和尚ぞうけ給はられける、何もおどらぬ高そうたち也、どみに事行がたうや有んずらん、人々内々さゝやき合れけり、あんのごとく御門かくれさせ給ひしかば、公卿せんぎ有けり、抑臣らがおもんはかりをもつてえらんで位につけ奉らん事、ようゑやわたくし有にたり、萬人唇を返すべし、ゑらすけい馬すまふのせつをどげ、其うんをゑり、ゑゆうによつてほうそをさづけ奉るべしと議定をはんぬ、去程に同ゑき九月二日の日、二人のみや達うこんのば、へ行啓有けり、略 〇 せんせい僧正は東寺にだんをたて、ゑりやう和尚は大内のゑんごんぬんにだんをたていのられけるが、ゑりやうはうせたりといふひろうをなさば、せんせい僧正すこしたゆむ心もやおはすらんとて、ゑりやうはうせたりといふひろうをなして、かんだんをくだいていのられけり、すでに十ばんのけいばはじまる、はじめ四ばんは一の御子これたか親王家かたせ給ふ、後六ばんは二の宮これ仁親王家かたせ給ふ、やがてすまふのせつ有べしとて、一の御子これたか親王家よりは、なとらのう兵衛のかみとて、およそ六十人が力あらはしたるゆゑしき人を出されたり、二の宮これ仁親王家よりは、よしをの少將とて、せいちいさうたへにして、かた手にあふべし共見えぬ人、御むさうの御つげ有とて、申うけてぞ出られける、去程に名とらよしをよりあひて、ひしゝとつをとりしてのきにけり、ゑばらく有てなとらつとより、よしを、取てさゝげ、二丈ばかりぞなげ上たる、たゝなほつてたをれず、よしを又つとより、なとらを取てふせんとす、され共なとらは大のをとこかさにはる、よしを猶あふなう見えければ、御母儀そめ殿の後より、御つかひくしのはのごとくにゑげうはしりかさなつて、御かたすでにまけいろに見ゆ、いかせんぞ仰ければ、ゑりやう和尚は大ぬどくのほうを行はれけるが、こは心うき事なりとて、どつこをもつてかうべをつきやぶり、なづきをくだしにうにわしてごまにたき、くろけぶりを立て一もみもまれたりければ、よしをすま